

PHC プロバイダ PATLITE パソコン出カリレーユニット

Version 1.0.0

ユーザーズ ガイド

July 17, 2012

【備考】

【改版履歴】

| バージョン | 日付 | 内容 |
|---------|------------|--------------------|
| 1.0.0.0 | 2006-02-24 | 初版. |
| 1.0.0.1 | 2010-02-12 | エラーコード追加 |
| 1.0.0 | 2012-07-17 | ドキュメントのバージョンルールを変更 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

【対応機器】

| 機種 | バージョン | 注意事項 |
|----|-------|------|
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

目次

| | |
|---|---|
| 1. はじめに | 4 |
| 2. プロバイダの概要 | 5 |
| 2.1. 概要 | 5 |
| 2.2. メソッド・プロパティ | 6 |
| 2.2.1. CaoWorkspace::AddController メソッド | 6 |
| 2.2.2. CaoController::AddVariable メソッド | 6 |
| 2.2.3. CaoVariable::put_Value メソッド | 7 |
| 2.3. 変数一覧 | 8 |
| 2.3.1. コントローラクラス | 8 |
| 2.4. エラーコード | 8 |
| 3. サンプルプログラム | 9 |

1. はじめに

本書は、PATLITE 製パソコン出力リレーユニット(PHC-100A)用の CAO プロバイダである PHC プロバイダのユーザーズガイドです。

本書は、この PHC プロバイダの機能と実装されているメソッドについて説明します。

2. プロバイダの概要

2.1. 概要

PHCプロバイダは、CaoVariable オブジェクトの put_Value メソッドのみを用いて通信します。送信パケットの ID やコマンドの指定などは AddController のオプションや変数名で行うようにし、簡略して操作できるように実装されています。

表 2-1 PHC プロバイダ

| | |
|----------------------|----------------------------|
| ファイル名 | CaoProvPHC.dll |
| ProgID | CaoProv.PATLITE.PHC |
| レジストリ登録 ¹ | regsvr32 CaoProvPHC.dll |
| レジストリ登録の抹消 | regsvr32 /u CaoProvPHC.dll |

¹ ORiN SDK でインストールした場合は手動で登録/抹消する必要はありません。

2.2. メソッド・プロパティ

2.2.1. CaoWorkspace::AddController メソッド

このメソッドは、PHC-100A との接続処理を行います。ID オプションを使用すると送信コマンドの ID を指定することができます。

以下に AddController の引数仕様を示します。

```
AddController
(
    "<コントローラ名>",           // コントローラ名
    "GaoProv. PATLITE. PHC",     // プロバイダ名. 固定.
    "<マシン名>",               // プロバイダの実行マシン名.
    "<オプション>"              // オプション文字列
)
```

以下にオプション文字列に指定するリストを示します。

表 2-2 CaoWorkspace::AddController のオプション文字列

| オプション | 意味 |
|----------------------|---|
| Port[=<ポート番号>] | COM ポート番号. (デフォルト:1) |
| ID[=<ID1><ID2>] | ID. ここで指定した ID が送信コマンドの ID に使用されます. ここで文字数によって以下のように判別されます. 0文字 : デフォルト値:"?"(デフォルト) 2文字 : 指定した文字を ID として使用します. 0, 2文字以外 : AddController は失敗します. |
| Timeout[=<タイムアウト時間>] | タイムアウト時間. (デフォルト:500ms) |

2.2.2. CaoController::AddVariable メソッド

このメソッドで指定した変数名によって、送信されるコマンドの種類が変化します。指定できる変数名は 2.3.1 を参照して下さい。

変数名と送信するコマンドは以下のように設定されます。

```
AddVariable
(
    "<変数名>",                 // コマンド種別
    "<オプション>"             // オプション文字列 (未使用)
)
```

2.2.3. GaoVariable::put_Value メソッド

コマンドを作成して、デバイスに対して送受信処理を行います。作成するコマンドの ID は AddController メソッドの ID オプションで指定した値が使用されます。

変数名と作成されるコマンド部、データ部は以下のようになっています。

表 2 変数名と作成コマンドの対応

| 変数名 | コマンド部 | データ部 |
|-------|--------------|--|
| SET | 0 | 入力データを上位 4 ビットと下位 4 ビットに分け、それぞれに 0x30 を追加したデータを作成します。 例)入力値:0x27→ データ 1:0x32 データ 2:0x37 |
| RESET | 1 | |
| OUT | 0で送信後, 1で送信. | 入力データで SET コマンドを送信し, 入力データをビット反転して RESET コマンドを送信します。 例)入力値:0x27→ SET データ 1:0x32 データ 2:0x37 RESET データ 1:0x3d データ 2:0x38 |
| ID | ? | 入力データをそのままデータ部に使用します。 文字数が 2 文字出ないときは, put_Value プロパティは失敗します。 |

2.3. 変数一覧

2.3.1. コントローラクラス

表 2-3 コントローラクラス ユーザ変数一覧

| 変数名 | データ型 | 説明 | 属性 | |
|-------|---------|---|-----|-----|
| | | | get | put |
| SET | VT_UI1 | リレーON. | - | ○ |
| RESET | VT_UI1 | リレーOFF. | - | ○ |
| OUT | VT_UI1 | ビットが1になっているリレーを ON にし, ビットが0のリレーを OFF にします. | - | ○ |
| ID | VT_BSTR | ID の設定 | - | ○ |

2.4. エラーコード

PHC プロバイダでは, 固有のエラーコードはありません. ORiN2 共通エラーについては, 「[ORiN2 プログラミングガイド](#)」のエラーコードの章を参照してください.

3. サンプルプログラム

以下に SET コマンドを送信するサンプルを示します。

COM ポート番号 : 1

ID : "sa"

List 3-1 Sample.frm

```
Private eng As CaoEngine
Private ctrl As CaoController
Private var As CaoVariable

Private Sub Form_Load()
    Set eng = New CaoEngine

    ' PHC と接続
    Set ctrl = eng.Workspaces(0).AddController("Sample", _
                                                "CaoProv. PATLITE. PHC", _
                                                "", _
                                                "Port=1, ID=sa")

    Set var = ctrl.AddVariable("SET")
End Sub

Private Sub Command1_Click()
    ' コマンド送信
    var = CByte(text1.Text)
End Sub
```